

バナキュラー建築と 現代の建築環境: Part III

岩村 和夫

東京都市大学名誉教授
香港珠海大学客員教授
株式会社岩村アトリエ代表取締役



B. バナキュラー建築の現代的解釈

1. バナキュラー建築と建築家
2. 日本-1: 市役所
3. 日本-2: 戸建住宅
4. 日本-3: 公営住宅団地

1. バナキュラー建築と建築家

プロの建築家がデザインした建築は、通常バナキュラー建築とは見なされません。

英国の建築史家、**ポール・オリバー (Paul Oliver: 1927-2017)** は、彼の著書「住居 (**Dwellings**)」の中で次のように述べています：

「...プロの建築家やコマーシャル・ビルダーが一般向けにデザインした大衆建築は、バナキュラー建築の範疇に入らない。」

彼はまた、「人々の、人々による、しかし人々のためではない建築」と、シンプルに表現しています。

フランク・ロイド・ライト (Frank Lloyd Wright) は、こう記述しています：

「実際のニーズに応え、地域の感性とフィットする術しかない人々による、環境に適応した大衆建築で、そのデザインは知的な思考が欠如した、プリミティブなものである。」

しかし、彼はまた、「我々にとっては、欧州の高度に美的でアカデミックと自認する試みよりも、学ぶ価値がある。」とも述べています。

(Source: Wikipedia, the free encyclopedia)

少なくとも19世紀末の＜アーツ・アンド・クラフト運動＞以来、多くの近代建築家達がバナキュラー建築を研究し、そこからインスピレーションを得て、自らのデザインに取り入れてきました。

1946年に、エジプト人建築家の**ハッサン・ファティ (Hassan Fathy: 1900-1989)** は、ルクソール近郊ニューグルナの都市デザインを依頼されました。彼はヌビアの伝統的な村と建築技術を調査し、デザインに伝統的な日干レンガによるボールト屋根を導入しました。

様々な社会的、経済的理由でこの試みは失敗に終わりましたが、バナキュラー建築の手法や形態を採用することによって、建物のユーザーの社会的、環境的要求に応えようとした、初めての試みとして記録に残されています。

(Source: Wikipedia, the free encyclopedia)

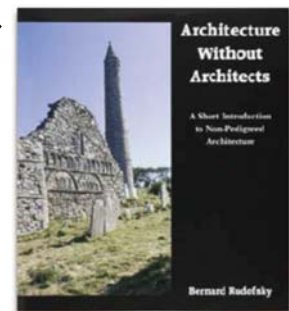
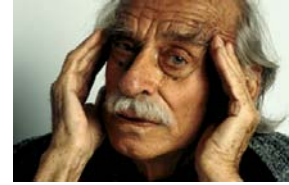
1964年、「**建築家なしの建築**(Architecture without Architects)」と題する展覧会が、ニューヨーク近代美術館で **バーナード・ルドルフスキー** (Bernard Rudofsky:1905-1988) によって開催されました。

同じタイトルで世界中のバナキュラー建築のモノクロ写真を挿入した書籍も出版され、展覧会は大変な人気を博しました。

ルドルフスキーは建築の分野で初めてバナキュラーという用語を用い、その考え方を一般の人々と、建築界の主流に対して訴えることに成功しました。

「このような建築に決った名称があるわけではなく、場合に応じてバナキュラー、無名の、自然発生的な、土地に根ざした、地方の、などと呼ぶべきである。」

1970年代にこの用語が出現して以来、個々の建築家の間にはその効果について多様な意見があるものの、バナキュラーな配慮は建築デザインにおける役割が増大してきました。



B. バナキュラー建築の現代的解釈

1. バナキュラー建築と建築家
2. 日本-1:市役所
3. 日本-2:戸建住宅
4. 日本-3:公営住宅団地

沖縄県 亜熱帯の3つの群島



島数計: 363
人口: 1.41 百万人
面積: 2,281 km²



5-5. 風土に根ざした市役所, 沖縄



名護市役所:
竣工: 1981年
述べ床面積: 6,149m²
設計: Atelier ZO + Atelier Mobile





日本初のパッシブデザインによる市役所で、随所に亜熱帯で快適な環境をもたらす緩衝空間が設けられている (当初はACなしで使用された)



このパッシブデザインの先端的取り組みは、サステナビリティが世界的な課題となる前から、国内に大きな話題となり関心を集めた



B. バナキュラー建築の現代的解釈

1. バナキュラー建築と建築家
2. 日本-1:市役所
3. 日本-2:戸建住宅
4. 日本-3:公営住宅団地

Zones

Northern Zone (1, 2, 3, 4)
HDD: D₁₈₋₁₈ >3,000

Intermediate Zone (5, 6)
HDD: D₁₈₋₁₈ =1,500~3,000

Southern Zone (7, 8)
HDD: D₁₈₋₁₈ <1,500

Cities

Sapporo

Sukagawa

Saitama

Tokyo

Yokosuka

Atsugi

Hamamatsu

Osaka

Itoman



70

LO·HOUSE

ようこそ、
私は「ロ・ハウス(LO・House)」です

超少子高齢化社会はすでに始まっています。
気候変動などの地球環境問題も持ったなし。
身近な安全・安心も大きな課題。

日本人の暮らしも、日本人の住まいも、
そして日本の住宅市場も、
これらのキーワードで大きく揺れ始めています。

そこに応えながら、快適で美しく、
スマートな暮らしをめざす「ロハス*1」。
私はそんな暮らしをプロデュースする「ロ*2・ハウス」です。

その基本は熱、光、音、風、香り、肌触り。
五感を通じて外界と対応する住まいです。
自然と向き合う暮らしです。

都市にも、田舎にも、そこだけの場所があり、
ともに暮らす人たちがいて、次代を担う子どもたちがいる。
「ロ・ハウス」はそんな「暮らしを耕す」舞台です。

必要なエネルギーも、設備機器も、建材も、
十分吟味して選んで、
そして長く使えるように。

だから私の氏素性を明かします。
初期の仕様・性能はもちろん、その後の履歴を残します。
そして、程よい住まい方をおすすめします。

気持ち良く、心地よく、美しく、
市場が変わり、社会が変わる。
そんな住まい、「ロ・ハウス」の出番です。

その戸建の一例をご覧ください。

■ ENEX2007「ロ・ハウス」コーナー主催者
経済産業省

■ 事務局
財団法人 省エネルギーセンター

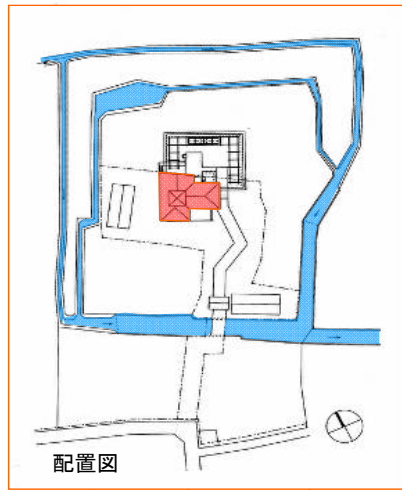
*「ロ・ハウス」については、経済産業省、国土交通省、環境省共催の「ロ・ハウス構想推進に関する検討会」で、その考え方や推進方策等を検討中です。

参考例

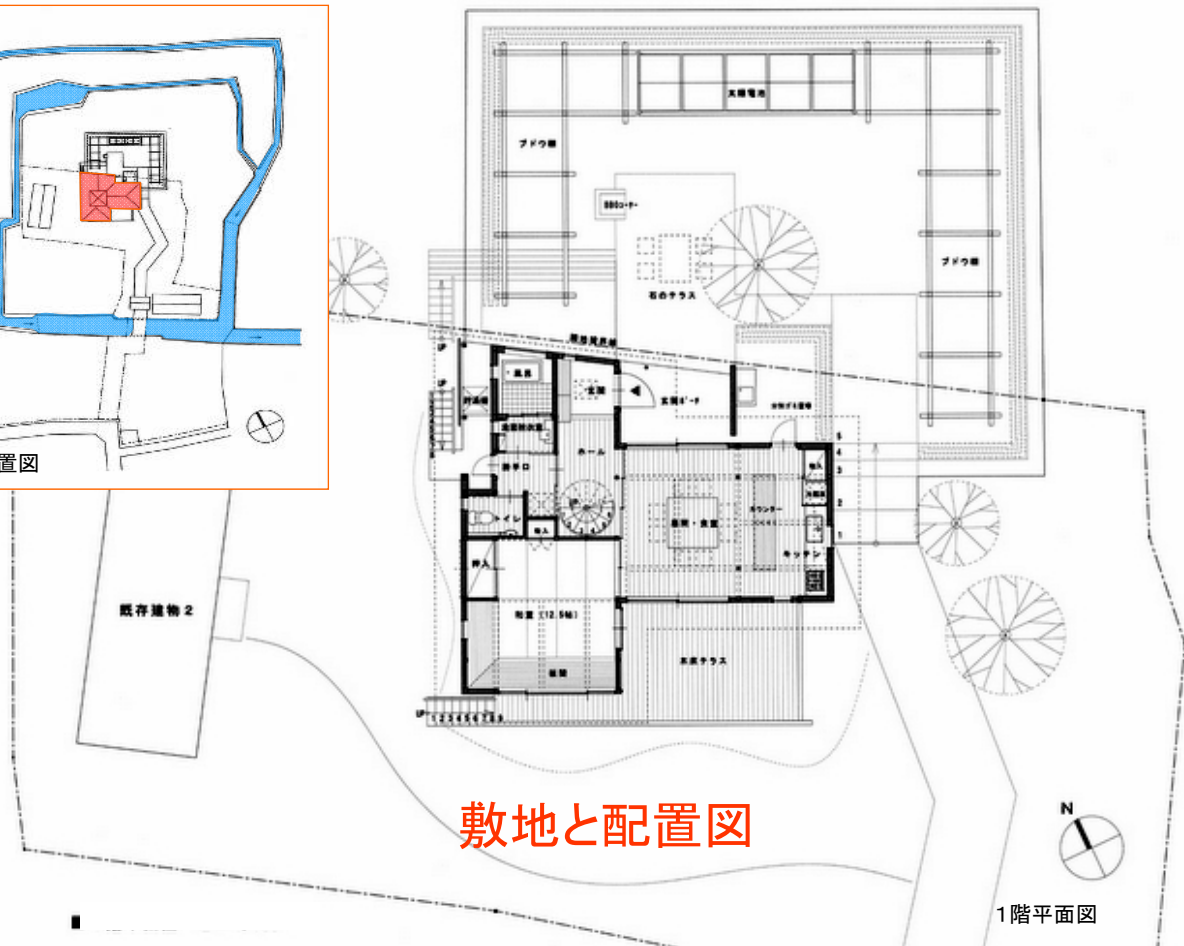
事例名称: 望楼の家(2008年竣工)
設計・資料提供: 株式会社 岩村アトリエ

*1: LOMAS (Lifestyle of Health and Sustainability)
*2: Locality, Location, Genius Loci, Low Impact, Lookout
Life-Oriented, Longevity, Leadership of Housing

71



配置図



敷地と配置図

1階平面図

72

全貌

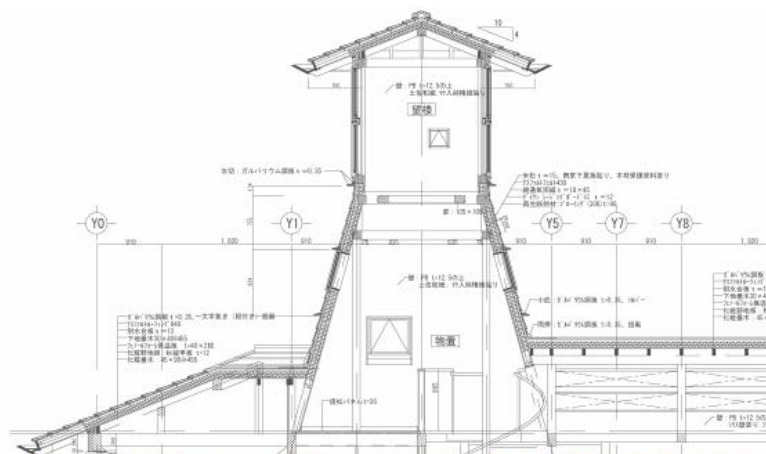


敷地配置図



内観見上げ

73



望楼の断面詳細



望楼の内部見上げ



自然換気のための
地窓

相互に貫入する
内部空間

望楼



General View



Northern Platform
Garden

リサイクル
PET断熱材



Texture of
External Wall

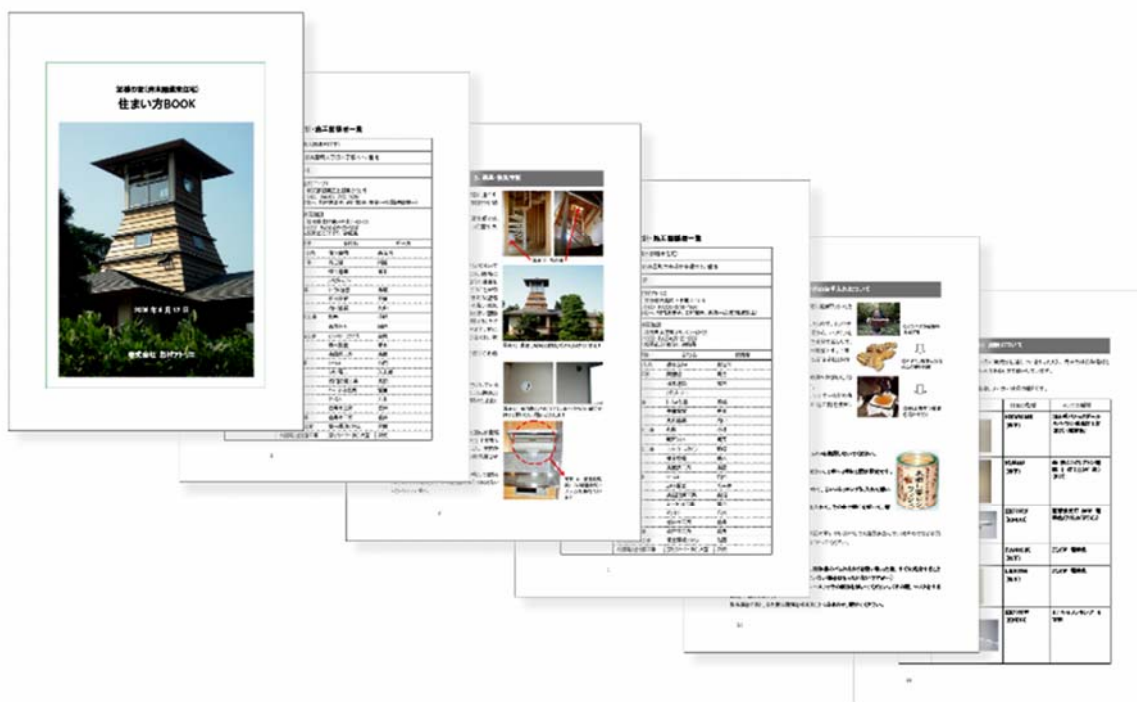
リサイクル可能な
床暖房パネル



Pavement of
Garden

Safe
Finishing Materials





76

■“House Book” は、新旧の家の素性と履歴を詳細に記録した文書。

B. バナキュラー建築の現代的解釈

1. バナキュラー建築と建築家
2. 日本-1:市役所
3. 日本-2:戸建住宅
4. 日本-3:公営住宅団地

77

屋久島環境共生住宅

2001~2006, 鹿児島

● 公営(県営・町営)賃貸住宅

・50戸(県営26戸+町営24戸)

・共用施設

・コモン+駐車場

● 敷地面積: 19,750 m²

Designed by: IWAMURA Atelier



78

Zones

Northern Zone (1, 2, 3, 4)

HDD: D₁₈₋₁₈ >3,000

Intermediate Zone (5, 6)

HDD: D₁₈₋₁₈ =1,500~3,000

Southern Zone (7, 8)

HDD: D₁₈₋₁₈ <1,500

Cities

Sukagawa

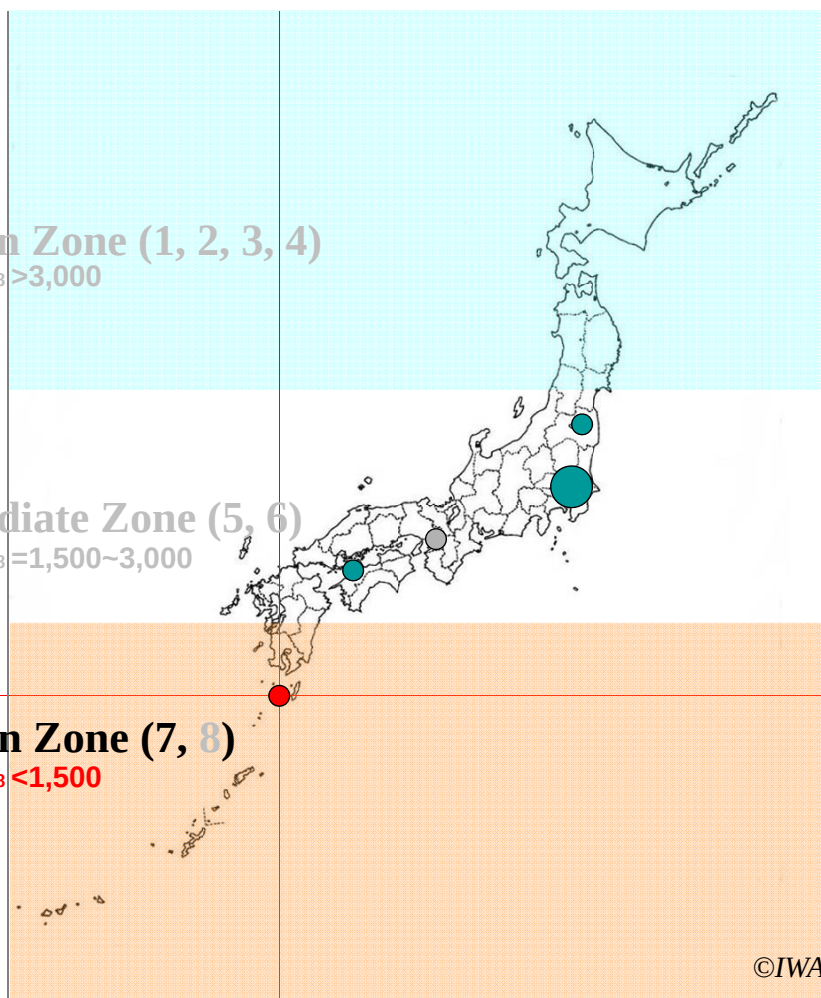
Tokyo

Kawasaki

Osaka

Matsuyama

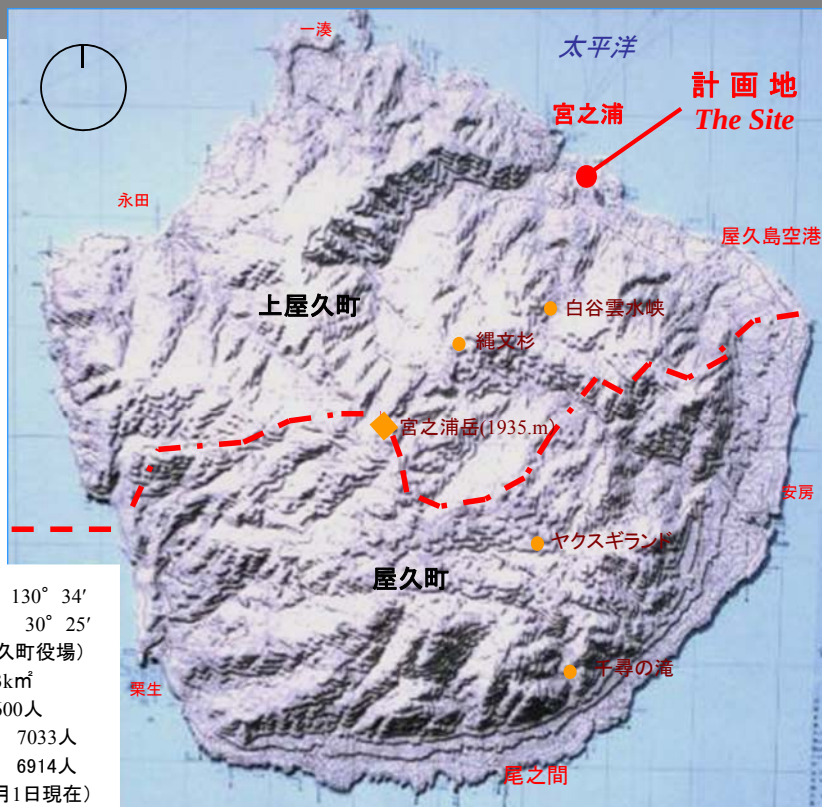
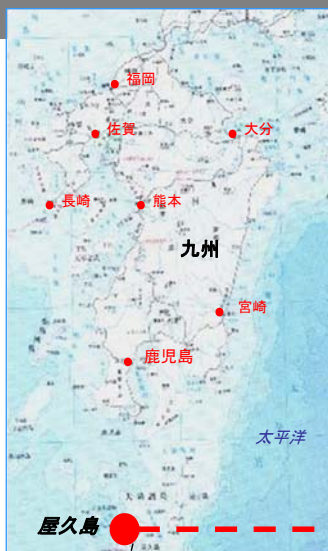
Yakushima



79

©IWAMURA Atelier Inc.

屋久島環境共生住宅の位置

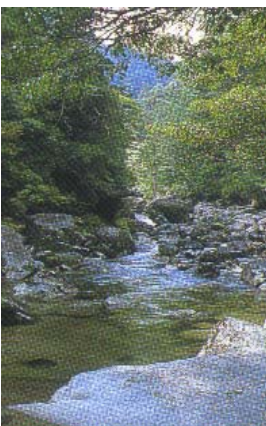


■屋久島の概要

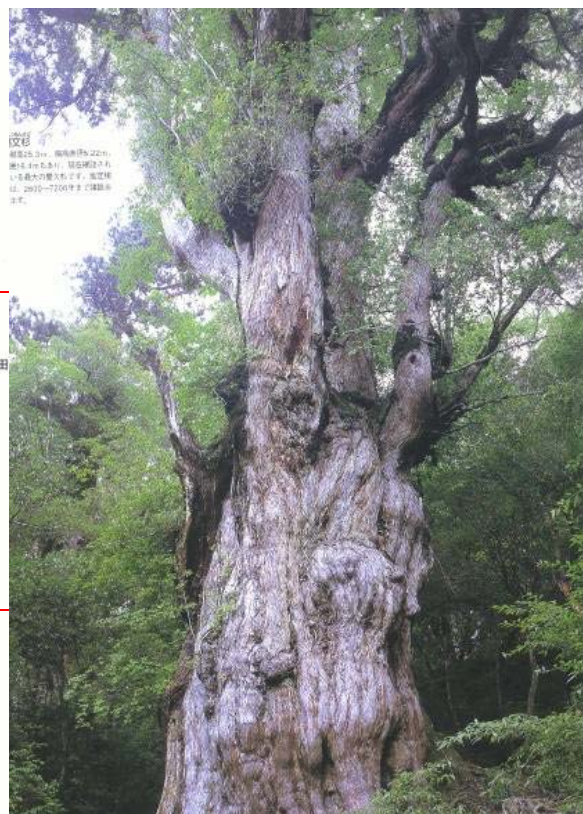
・位置：東経 130° 34' 北緯 30° 25' (上屋久町役場)
・面積：約503km²
・人口：約13600人
上屋久町：7033人
屋久町：6914人
(平成12年5月1日現在)

屋久島の自然: *World Natural Heritage*

■小花之江河の眺め



■ヤクスキラント内の清流



■ 繩文杉

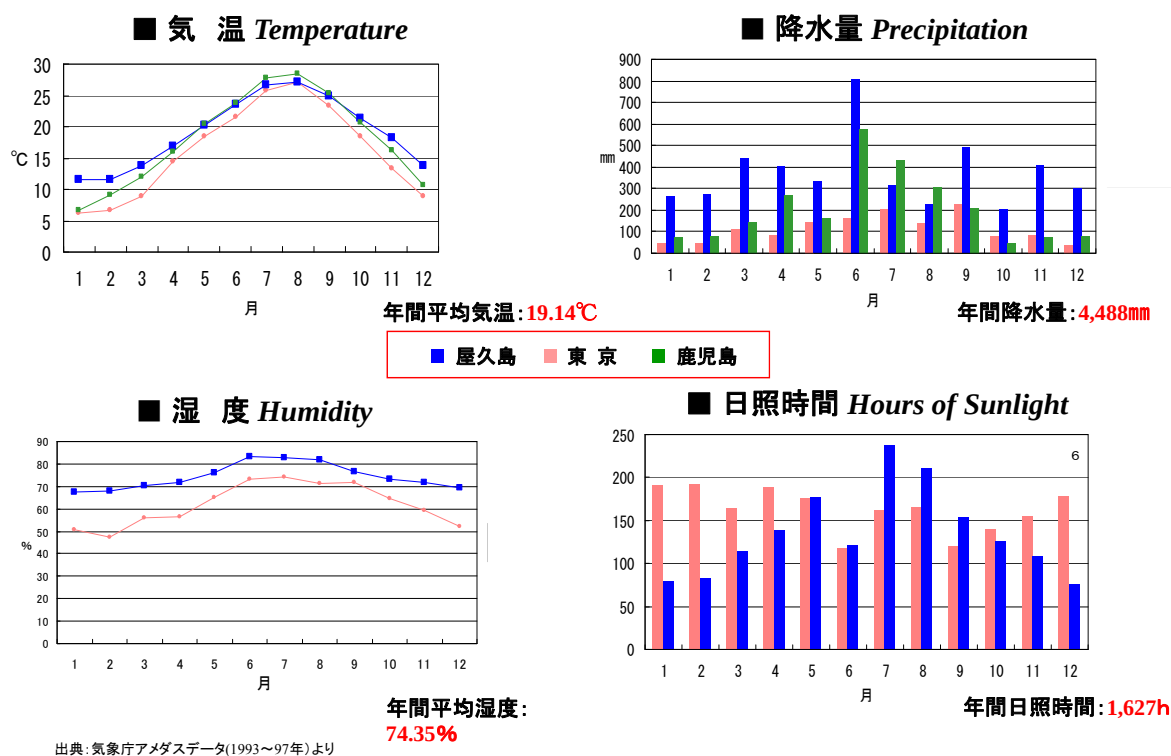


■白谷雲水峽



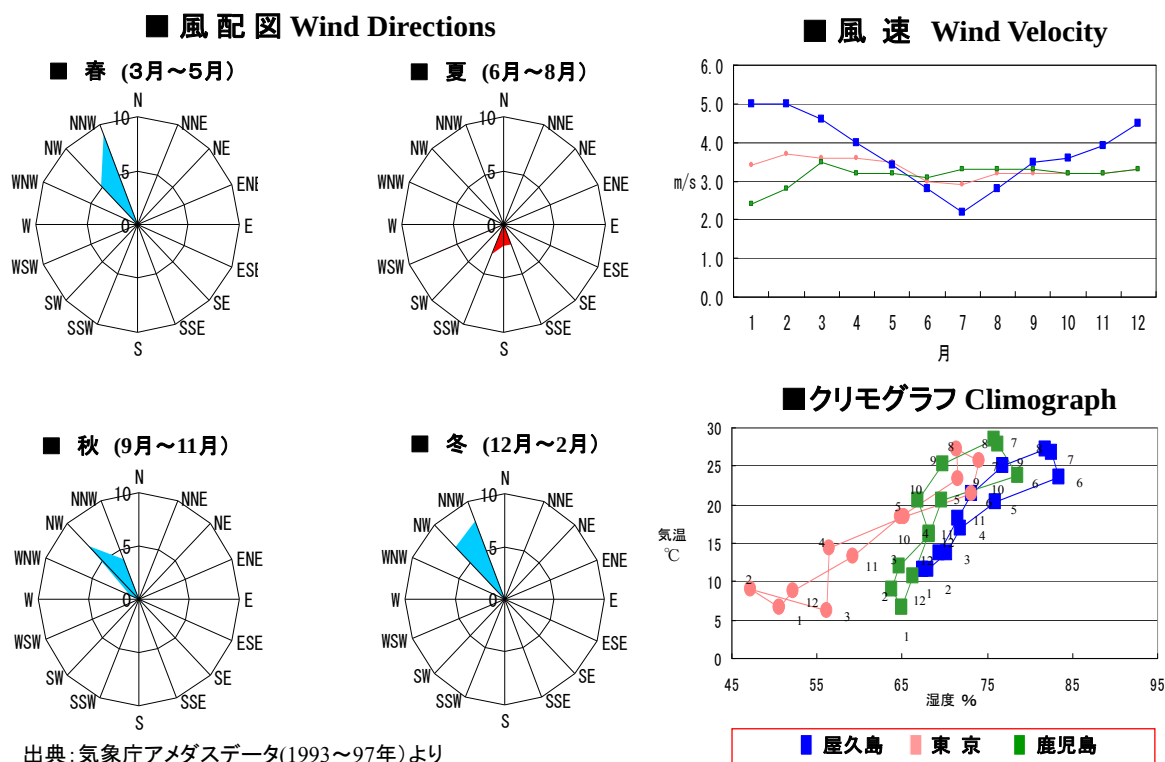
■千尋の滝の遠望

屋久島の気象条件-1 (気温・降水量・湿度・日照)



82

屋久島の気象条件-2 (風向・風速等)



83

屋久島重ね暦(フェノロジーガイド): 地域性の総合的理解



84

基本コンセプト

屋久島の環境と折り合い、様々な生命が宿る場所
「屋久と一歩(YAKUTOPE)」を育む

1. 場所を包む森羅万象を読み取り、山と里と海を巡る円環を結ぶ

山海万象

2. 新旧の地場の材と営みを活かし、屋久島の家づくりを発見する

樹庵造営

3. エネルギーと物質の循環を図り、住まい・まちづくりの系を紡ぐ

風水円環

4. 暮らしから屋久の世界を描き、集住と家並みの風景を醸成する

文里醸成

*「ト・ブ」は、ギリシャ語で「場所」を示す言葉の「トポス」に由来します。

■屋久島環境共生住宅(屋久と一歩)の円環構造



85

環境形成計画指針

1. 太陽と暮らす

- ・太陽エネルギーを利用する
- ・適切な断熱と日射遮蔽を行う
- ・適切な断熱を行う
- ・内外に影をつくる
- ・土面を確保し、しつらえを工夫する
- ・北側空間を有効利用する

2. 水と暮らす

- ・排水する
- ・雨を避ける
- ・雨水を利用する
- ・保水力を高める
- ・節水・水質浄化に寄与する

3. 風と暮らす

- ・空気の流れをつくる
- ・風力エネルギーを利用する
- ・強風・塩風害に対応する

4. 資源と暮らす

- ・省エネルギー設備機器を採用する
- ・船対構造を長持ちさせる
- ・ライフスタイルの変化に対応する
- ・リサイクル資材・建材を用いる
- ・廃棄物を削減する
- ・地場産材を積極的に採用する

5. 生き物と暮らす

- ・表土の流出を防止する
- ・薬剤を過剰に利用しない
- ・水と緑の軸をつくる
- ・多様性を確保する
- ・貴重種・希少種の保護に配慮する
- ・多孔質な空間を確保する

6. 地域社会と暮らす

- ・界隈を引き継ぐ
- ・伝統的住いに学ぶ
- ・伝統的暮らしに学ぶ
- ・人と人の交流を進める
- ・家づくりに参加する
- ・まちづくりに参加する
- ・リサイクルマーケットを設置する

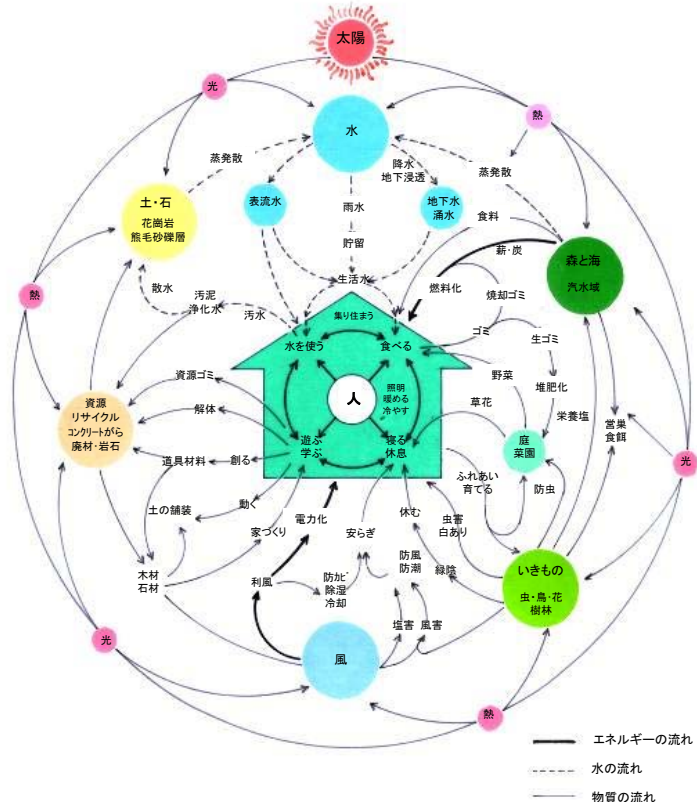
7. 自然と暮らす

- ・生き物とふれあう
- ・音・香り・触れを楽しむ
- ・緑化によって、熱環境の質を向上する
- ・原風景を引き継ぐ

8. 安心して暮らす

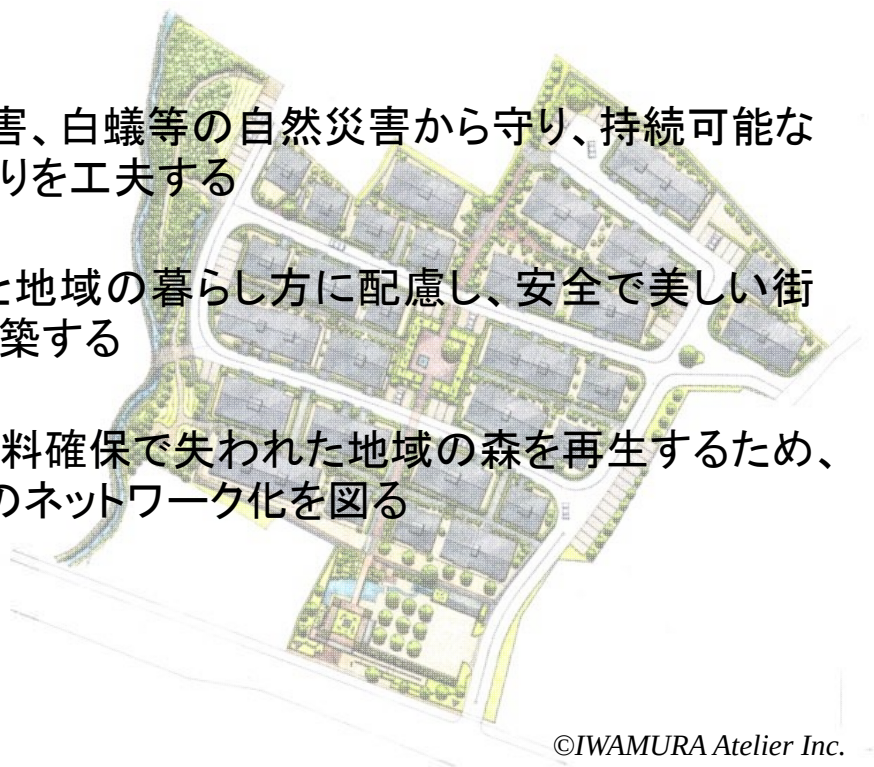
- ・利用者の特性に配慮する
- ・白ありの被害に対応する
- ・安全な材料を用いる
- ・カビ・結露を防ぐ
- ・非常時に備える

■屋久島環境共生住宅の流れと循環モデル図



屋久島環境共生住宅の主な達成目標-1

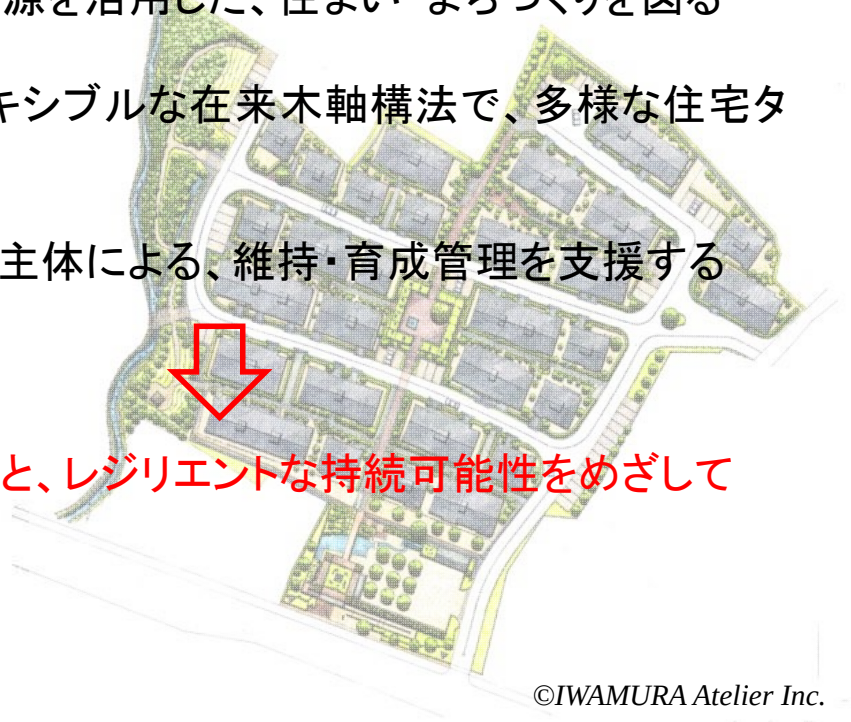
- 1) 台風、豪雨、塩害、白蟻等の自然災害から守り、持続可能な住まい・まちづくりを工夫する
- 2) 敷地の原地形と地域の暮らし方に配慮し、安全で美しい街並みと風景を構築する
- 3) たたら製鉄用燃料確保で失われた地域の森を再生するため、緑を育成し、そのネットワーク化を図る



屋久島環境共生住宅の主な達成目標-2

- 4) 屋久島の地場資源を活用した、住まい・まちづくりを図る
- 5) シンプルでフレキシブルな在来木軸構法で、多様な住宅タイプを提供する
- 6) 住み手の参加と主体による、維持・育成管理を支援する

人間の安全保障と、レジリエントな持続可能性をめざして



©IWAMURA Atelier Inc.

88

永田の民家・集落：バナキュラーな美しい集落

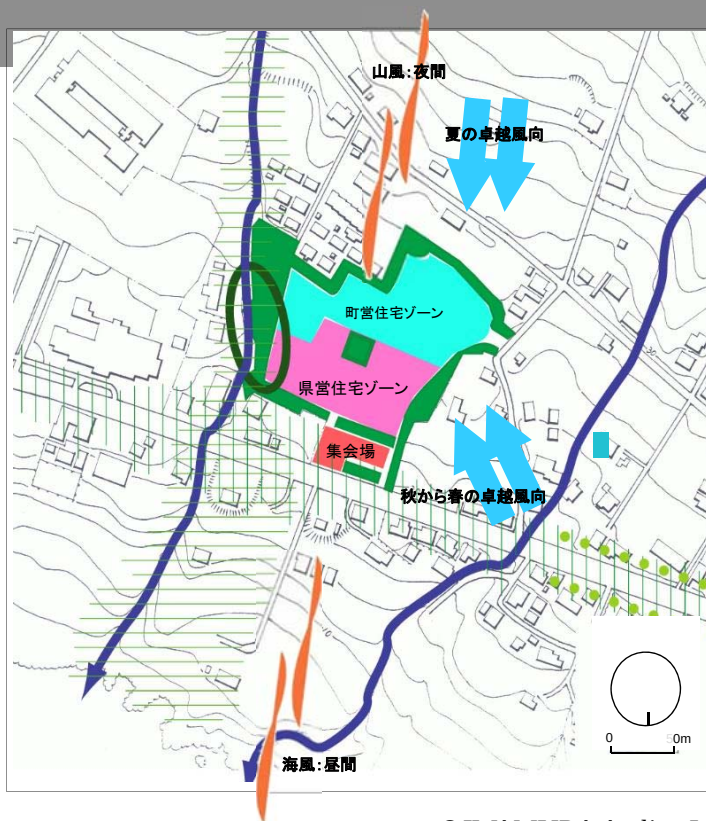


89

環境形成計画：敷地周辺与条件の活用

目次

- 既存街路樹
- ▨ 沿道ゾーン
- ▨ 水系緑地ゾーン
- ピオトーブ
- 町営住宅ゾーン
- 県営住宅ゾーン
- 集会場
- 保全緩衝緑地
- 小川
- 季節風卓越風向
- 山風・海風卓越風向



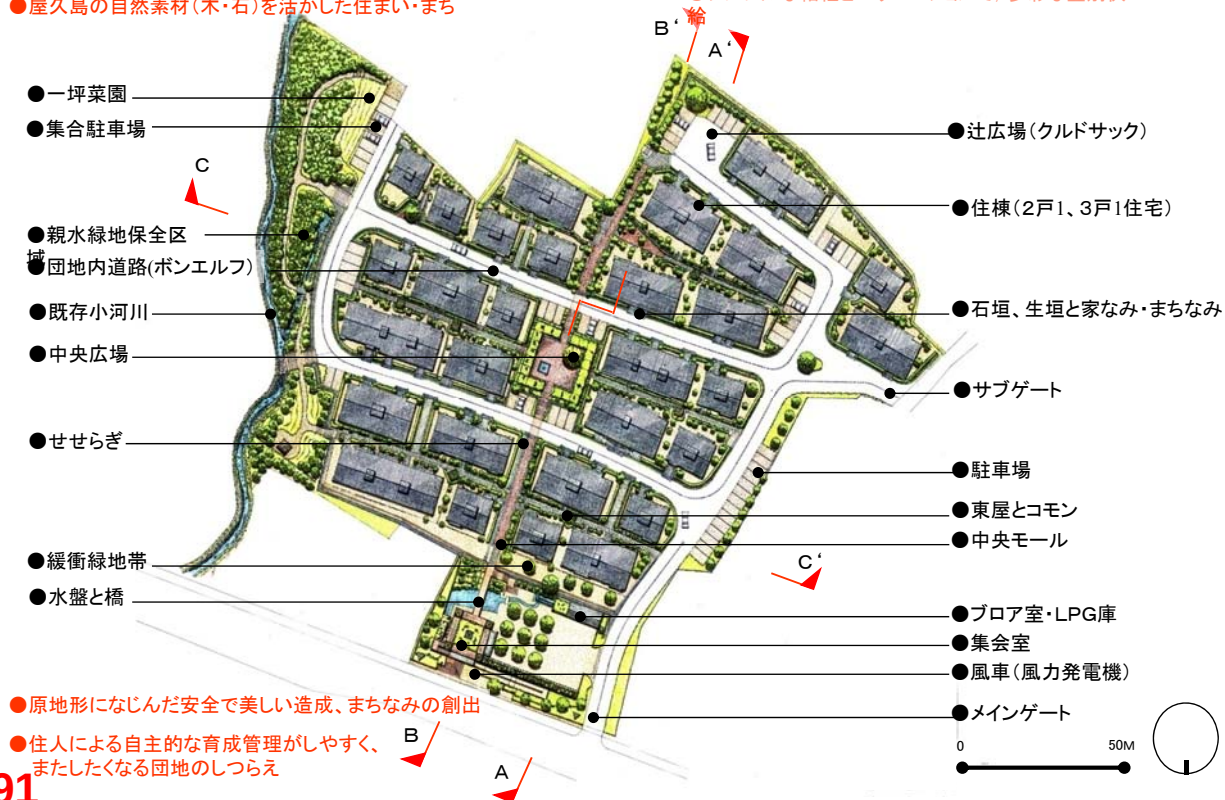
©IWAMURA Atelier Inc.

90

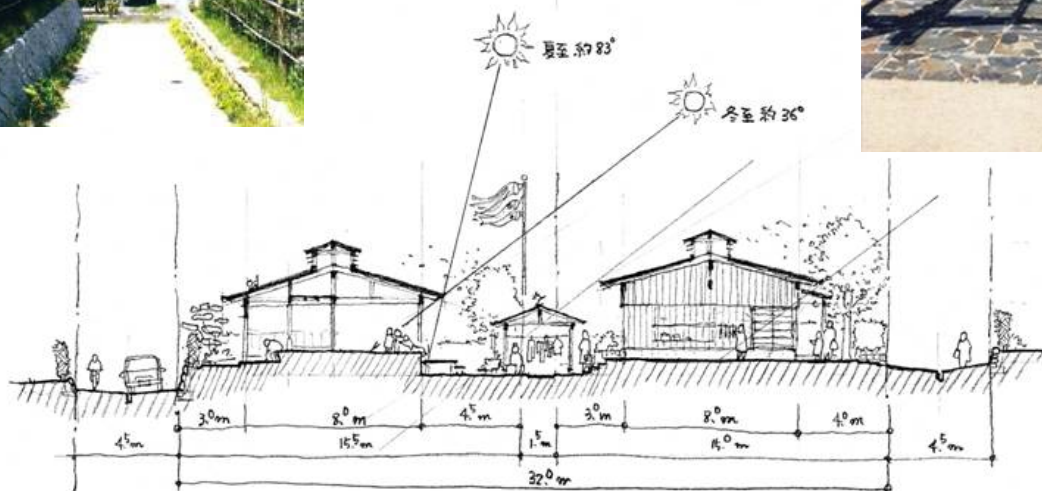
全体配置計画

- かつての海岸段丘樹林の再生をめざす緑化ネットワークの拠点化
- 屋久島の自然素材(木・石)を活かした住まい・まち

- 台風・豪雨・塩害・白蟻に耐え、長く使える基盤整備と家のつく
- シンプルな軸組とバリエーションで、多彩な型別供



91



92

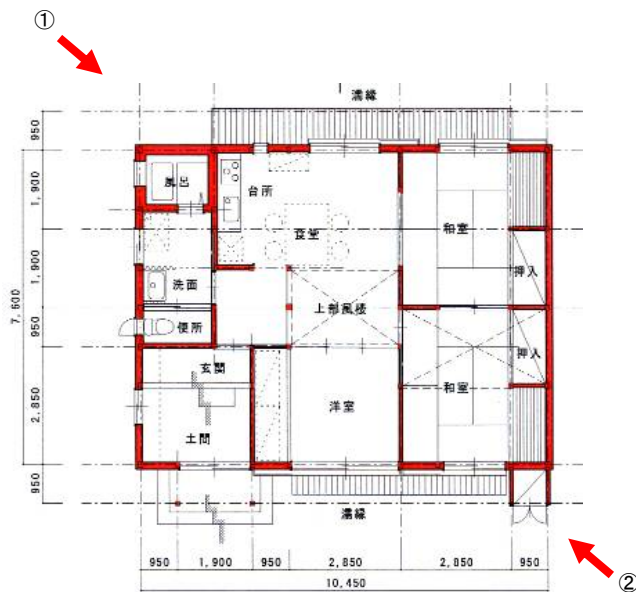
©IWAMURA Atelier Inc.

住棟配置と背割リコモンのイメージ



93

住戸(Aタイプ)の軸組みと構法



①北西からの俯瞰



②南東からの俯瞰

94

住区のまちなみ (2001)



地域の既存伝統集落に学んだ住宅のつくり方、配置に基づくまちなみの形成

95

住戸内空間と背割りコモン



■広い玄関



■濡れ縁から背割りコモンを望む

96

住戸内部のしつらえ(越屋根と床下)



■越屋根の見上げ



■スギの荒床と床下の廃材木炭

97

集会場：団地と地区の交流・レジリエントセンター



■前岳を背景に集会室正面をのぞむ

98

中央広場

as of August 2004



99

中央モール



■中央広場の背後に前岳をのぞむ



風力発電で循環する小水路



■集会場屋上の向こうに海が広がる

100

背割りコモン

as of August 2004

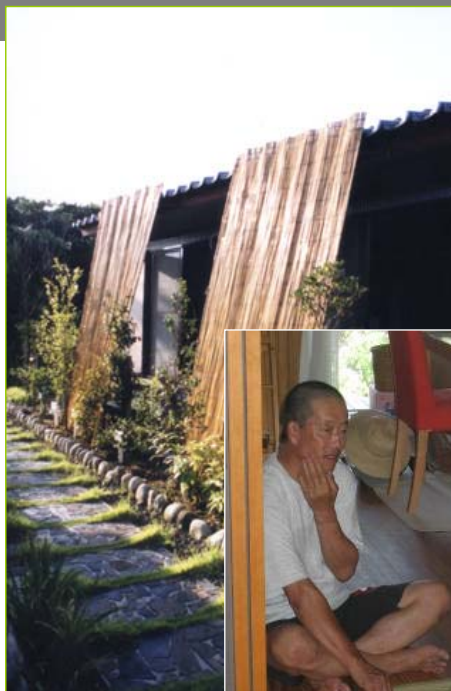


101

住み手の工夫

as of August 2004

■住み手による強い陽射しを緩和する工夫



102

■夏期の住まい方

©IWAMURA Atelier Inc.

家並みと周辺環境のインテグレーション



103